

72) von Recklinghausen 母斑症に左内頸動脈(C₃)狭窄, 左椎骨動脈閉塞および右内頸動脈瘤を伴い, 左後頭部に巨大血腫を形成した1例

蕎麦田英治・安藤 彰 (弘前大学)
大熊 洋揮・鈴木 重晴 (脳神経外科)

von Recklinghausen 母斑症は, 中胚葉・外胚葉系の形成異常を示す遺伝性疾患で, 時に特異な血管性病変を伴う。今回我々は, 28才女性で, 左後頭部の巨大血腫にて発症し脳血管写にて左内頸動脈(C₃)狭窄及びモヤモヤ現象, 左椎骨動脈の環椎レベルでの閉塞および右内頸動脈瘤を合併していた症例を経験した。 von Recklinghausen 母斑症にこのような血管病変を合併した報告は, Hilal (1971年) 以来文献上43例である。また本例の出血源について, 血腫に臨接した後頭骨に欠損を認め, 腫瘍や巨大動脈瘤なども考えられるが, 骨欠損が頭蓋骨形成不全で, 偶々後頭動脈等の破綻にて血腫を形成した可能性もある。

73) モヤモヤ現象を伴う中大脳動脈閉塞に前脈絡動脈末梢部動脈瘤・脈絡叢血管腫を合併し, 脳室内出血で発症した2例

森井 研・平林 賢一
黒木 亮・山中 龍也 (山形県立中央病
院 脳神経外科)
渡辺 正人・関口賢太郎
佐藤 進

我々は, 中大脳動脈閉塞にモヤモヤ現象を伴ない, 前脈絡動脈末梢部動脈瘤, 脈絡叢血管腫を合併した2成人例を経験した。2例とも脳室内出血で発症した。発症時血管写では, 中大脳動脈閉塞とモヤモヤ現象を認めたが, 動脈瘤は認められなかった。その後の血管写, CT で前脈絡動脈末梢の動脈瘤, 脈絡叢血管腫が疑われ, 直達手術を行なった。2例とも, 側脳室上衣下実質内に動脈瘤を, 側脳室脈絡叢に血管腫を認め, 両者を摘出した。動脈瘤は病理学的に仮性動脈瘤であった。

以上の2例から, モヤモヤ現象における出血の様式, 合併動脈瘤の位置づけについて考察し, 又, 脈絡叢血管腫合併の意味について私見を述べた。

74) 特異な血管写所見を呈した脳血管奇形の1例

栗本 昌紀・岡 伸夫 (富山医科薬科大)
野上 予人・堀江 幸男 (学 脳神経外科)
遠藤 俊郎

小原 進・中田 潤一 (八尾徳洲会病院)
脳神経外科

症例は26才男性。登山中, 頭痛・左不全片麻痺をきた

して当科へ搬送された。CT スキャンにて右前頭・頭頂部に皮質下血腫を認めた。右 CAG では, 右大脳半球にびまん性に広がる A-V シャントと豊富な medullary vessel を認めた。発症より13日後血腫除去術を施行し, 脳表に red vein を認めた。

自験例は, 豊富な medullary vessel を伴う A-V シャントが右大脳半球にびまん性に拡がっている点が特異的で, 通常の AVM とは様相が異なっており, 興味ある1例と思われた。

75) 穹隆部脳表にモヤモヤ血管の発達を認めた中大脳動脈分枝閉塞の2症例

金山 重明・桑原 健次 (八戸市立市民病
院 脳神経外科)
岩崎 隆雄

中大脳動脈分枝の閉塞に伴ない, 脳表にモヤモヤ血管の発達をみた minor stroke の2例(58才男, 58才女)を経験した。脳血管写上の共通所見は, ① 一側の M₁ 狭窄とその分枝閉塞そして側副路として発達した脳表のモヤモヤ血管 ② 内頸・椎骨脳底動脈系に多発性狭窄閉塞(内頸動脈終末部の変化は軽度) ③ basal moyamoya ④ 豊富な軟膜血管吻合 ⑤ レンズ核線状体動脈の発達であった。

中大脳動脈閉塞分枝に対しては, 開存皮質枝からモヤモヤ血管が発達し閉塞分枝へのよい側副路として働き, これは通常みられる軟膜血管吻合の一つの型とも考えられるが, 上述の③, ⑤などモヤモヤ病と共通点もみられ興味ある症例である。

76) 中大脳動脈閉塞症における局所的血流の検討

上野 一義・井原 博 (国立療養所
北海道第一病院)
多田 光宏・宝金 清博 (脳外科)

中大脳動脈閉塞症のうち皮質梗塞の CT 上の LD を Detector をつけた頭蓋レ線写上に投影することにより Detector を梗塞巣の中心部, 梗塞巣, 周辺部, 正常部にかかるものに分け, その平均値を検討し以下の結果を得た。

- 1) 部位別に血流量に差はみられなかった。
- 2) 血行は発症2週間後に低下し4週間後には増大する傾向がみられた。
- 3) Recanalization 後に intracerebral steal が解消される例がみられた。
- 4) 予後不良例と良好例では発症3日後までの血流では差がみられなかったが, 1カ月後では良好例が血流量が多くなっていた。